約50年の歴史を誇る安心の国内ブランド

ENGEL 車載用冷蔵庫カタログ

1962年から冷蔵庫の開発を続けてきたエンゲルの車載用冷蔵庫は、
本格コンプレッサー方式によって冷凍−15℃〜−18℃の優れた冷却性能を実現。
高い耐震性やコンパクト設計のほか、アフターサービスが充実しているのも大きな特徴だ。

コンパクトなクーラーボックス型のお手軽タイプ

レジャーシリーズ

MD14E

内容量 14L
外形寸法 W442×D284×H398mm
庫内寸法 W348×D190×H213mm
使用電源 DC12V
定格電流 3.9A(DC12V)
重量 11.5kg
価格 56,490円
上ブタの小窓で冷気を逃がさず簡単に庫内にアクセスできる、実用性抜群の09年ニューモデル。冷凍−15℃、冷蔵5℃の高性能もウリだ。

RD-13BL

内容量 13L
外形寸法 W442×D284×H372mm
庫内寸法 W348×D190×H190mm
使用電源 DC12V
定格電流 3.9A(DC12V)
重量 11.5kg
価格 54,390円
手軽に使えるレジャーシリーズのロングヒットモデル。コンパクト設計ながら350ml缶×22本の収納力を誇り、使い勝手はピカイチ!

HD-13GL

内容量 13L
外形寸法
W442×D284×H372mm
庫内寸法
W348×D190×H190mm
使用電源 DC12V
定格電流
3.9A(DC12V・温蔵2.5A)
重量 11.5kg
価格 69,300円
冷凍−15℃、冷蔵5℃に55℃の温蔵機能もプラスしたオールシーズンモデル。真夏には冷たい飲み物、真冬には温かい飲み物を保管できる。

冷凍−18℃の高性能と
高耐久性がウリ!

プロフェッショナルシリーズ

MR040F

内容量 38L
外形寸法 W636×D366×H471mm
庫内寸法 W380×D258×H365mm
使用電源 AC100V、DC12V/24V
定格電流 2.75A(DC12V)
重量 22kg
価格 94,290円
アウトドアをイメージした鮮やかなカラーリングが特徴の本格派冷蔵庫。1.5Lのペットボトルを10本収納できる38Lの容量は必要十分!

MT15E

内容量 15L
外形寸法
W538×D306×H348mm
庫内寸法
W291×D204×H254mm
使用電源 AC100V、
DC12V/24V
定格電流 3.1A
(DC12V)
重量 16kg
価格 71,400円
レジャー用としても業務用としても活躍する、冷凍−18℃の高性能を誇る上蓋式冷蔵庫。同タイプで21L、32L、40L、60Lのモデルもあり。

キャンピングカー定番の高性能ビルトインモデル

キャンピングカー&クルーザーシリーズ

SB47F

内容量 40L
外形寸法 W423×D511×H530mm
庫内寸法 W320×D403×H390mm
使用電源 DC12V/24V
定格電流 2.5A(DC12V)
重量 19kg
価格 84,420円
多くのキャンピングカーに採用されているポピュラーなビルトインモデル。冷凍室で製氷もでき、あらゆるシチュエーションに対応可能だ。

SB65E

内容量 56L
外形寸法 W508×D547×H656mm
庫内寸法 W376×D362×H453mm
使用電源 DC12V/24V
定格電流 3.3A(DC12V)
重量 21kg
価格 93,555円
省スペース設計ながらも56Lの庫内容量を確保した、本格キャンパーも満足の冷凍室付きビルトイン冷蔵庫。同タイプで76Lのモデルもあり。

キャンピングカーには欠かせない
快適化の最重要パーツ

冷蔵庫

●取材協力
澤藤電機
TEL0276-56-7325
www.sawafuji.co.jp

車載用冷蔵庫は家庭用とは違うの?

冷蔵庫はキャンピングカーには欠かせない快適装備の筆頭だ。これさえあれば真夏でも冷えた飲み物をいつでも飲むことができるし、傷みやすい食材も安心して保管することができる。通常のクーラーボックスでは、氷や保冷剤を交換しなければ冷却性能が落ちてしまうが、そうした手間もいっさいなし。車載用冷蔵庫は、「キャンプもくるま旅もコレなしでは始まらない」と言っても過言ではない、キャンピングカーの必須装備なのだ。

では、車載用冷蔵庫は家庭用とどこが違うのか? まずは電源に車載専用のDC、もしくはAC/DCを使用しているのが大きな違い。バッテリーに負担をかけないように省電力設計となっているのも、車載用ならではの重要なポイントだ。また、クルマに搭載することを前提としたコンパクト設計になっているほか、ちょっとした衝撃でも故障してしまうことのある家庭用冷蔵庫と比べて、車載用はその耐震性、耐久性においても特筆すべき性能を誇っている。それは、車載用冷蔵庫の老舗ブランド「エンゲル」の商品が荒野を走る機会の多いオーストラリアのクルマに数多く搭載されていることでも実証されている。

また、家庭用ではコンプレッサーで冷やした冷気をファンで庫内に循環させる間接冷却方式を採用しているが、車載用では庫内に張りめぐらしたエバポレーター内にフロンガスを循環させて冷やす直接冷却方式が採用され、冷却性能の効率化が図られているのも大きな違いだ。

庫内のエバポレーターにフロンガスを循環させる直接冷却方式が車載用冷蔵庫の特徴だ。

車載用冷蔵庫にはどんな種類があるの?

まず、ホームセンターなどで売られている安価な車載用冷蔵庫と、キャンピングカーに装着されている高価な車載用冷蔵庫の違いについて説明しておこう。通常、安価で売られている車載用冷蔵庫には、ペルチェ素子という半導体を使ったシステムが採用されているが、これはその構造上から一般的に外気温マイナス15℃の冷却効果が限界とされている。つまり、外気温が30℃の場合、庫内温度は15℃。これでは、価格は安いが、電力消費量の割には冷えないという悪循環に陥ってしまう。

対して、本格コンプレッサー方式を採用した車載用冷蔵庫の場合、上記と同じ外気温30℃で庫内温度を最大マイナス15℃〜18℃(エンゲル製冷蔵庫の場合/一部機種は5℃)まで下げられる冷却性能を誇っている。もちろん、冷凍庫としての使用も十分に可能。実用性を考えると、キャンピングカーでは多少高価でも性能の高い、コンプレッサー方式の車載用冷蔵庫を選択しておきたいところだ。

ビルトインモデルの庫内には製氷も可能なアイスメーカー(冷凍室)がセットされている。

また、車載用のコンプレッサー式冷蔵庫には、幅広いバリエーションがラインナップされている。キャンピングカーの世界では、家具内にビルトインするタイプで容量40L程度のモデルが主流となっているが、最近にわかに注目を集めているのがクーラーボックスタイプのポータブル型冷蔵庫だ。ビルトインタイプと比べると容量は少ないものの、価格も安く、持ち運びも可能なので、手軽に使用できるのが大きなメリットとなっている。

とくに、軽キャンパーをはじめとする室内空間に余裕のないキャンピングカーでは、こうしたポータブル型の冷蔵庫が人気を集めているようだ。

軽キャンパーオーナーに人気なのが、手軽に使えるコンパクトなクーラーボックス型冷蔵庫だ。